

短 報

島根半島におけるイノシシの分布拡大（Ⅱ）

山 川 渉*・金 森 弘 樹

Expanding distribution of wild boar in Shimane Peninsula（Ⅱ）

Wataru YAMAKAWA* and Hiroki KANAMORI

要 旨

島根半島においてイノシシの生息を初めて確認した2004年には、湖北山地の西側の一部のみで生息情報を得たが、2005年には湖北山地の東側で、2006年には枕木山山地でも生息を確認した。さらに2007年には、湖北山地、枕木山山地の広範囲で確認するとともに、これまで生息情報を得なかった弥山山地でも生息を確認した。また、捕獲頭数は2004年には27頭であったが、2005年から2007年には毎年70頭前後に増加した。これらのことから、島根半島においてイノシシは確実に定着し、増加していることが明らかになった。また、今後はイノシシの分布拡大と個体数の増加によって農作物への被害が増加する可能性が高いと考えられた。

I はじめに

これまで、島根半島ではニホンイノシシ（*Sus scrofa*）は絶滅したと考えられてきた。出雲国風土記の記述から、かつては島根半島部にもイノシシが生息していたと推測できるが¹⁾、明治期以降にはイノシシの生息の記録はなく²⁾、1993～1995年に県林業技術センターが行った調査でも確認されなかった³⁾。しかし、2004年に出雲市野石谷町付近で生息が確認され、それ以降は湖北山地を中心に島根半島の広範囲で確認されるようになった。

本研究は、島根県が策定した特定鳥獣（イノシシ）保護管理計画のモニタリング調査⁴⁾の一環として、これまで生息情報のなかった島根半島において、イノシシの生息状況と分布拡大の状況を把握するために行った。最初の調査は2006年に行ったが、この調査では、島根半島の湖北山地において、イノシシの生息を示す痕跡と農作物への被害発生を確認するとともに、捕獲された個体から繁殖の兆候を確認した⁵⁾。本報では、2007年の状況に

ついて調査した結果を報告する。

本研究を実施するに当たって、2006年の調査から引き続き情報収集と現地調査にご協力いただいた松江市農林課の石飛宏治主幹、出雲市平田支所産業振興課の岡本譲主事に厚くお礼を申し上げる。また、聞き取り調査にご協力をいただいた鳥獣保護員と地元猟友会員の各位に厚くお礼を申し上げる。

II 調査地と調査方法

調査地である島根半島は、島根県北東部に位置する東西66kmの半島である。大きく3つの山塊からなり、西は日御碕から県道250号線まで続く弥山山地、中央には県道250号線から佐陀川までの湖北山地、その東に美保関まで続く枕木山山地がある⁶⁾。半島の南側には、出雲平野、宍道湖、松江市街地、中海があつて、対面する中国山地との間には5～10kmの地理的な隔りがある。

調査は、島根半島全域を対象として、当該地域のイノ

*現鳥取県生産振興課

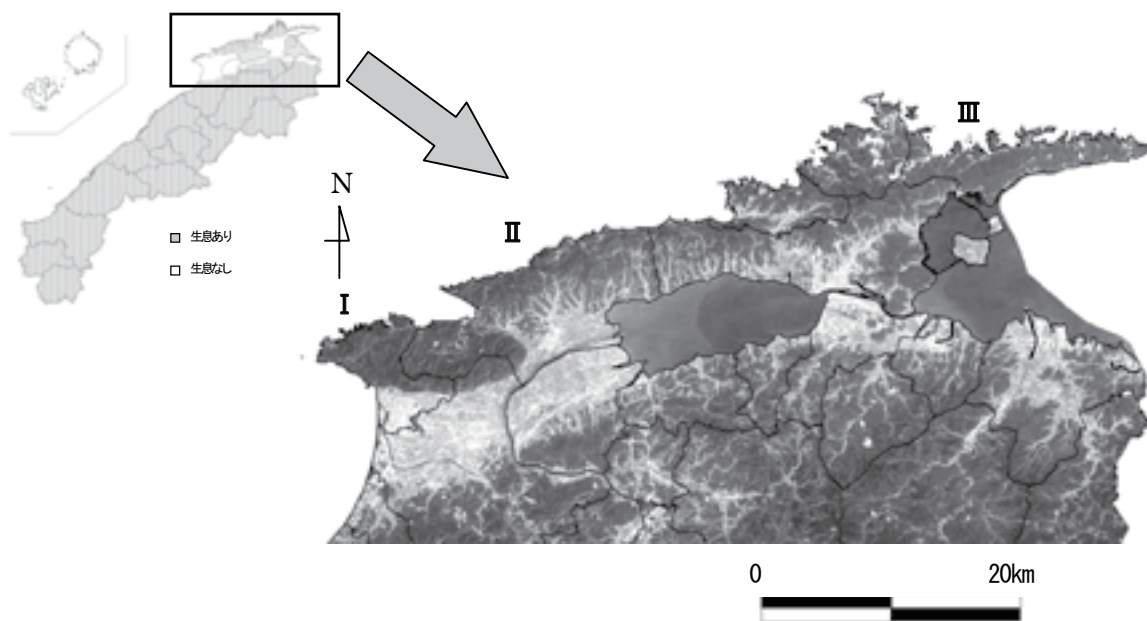


図1 島根県のイノシシの生息分布（左上）と調査対象地域の地勢（右下）
I：弥山山地 II：湖北山地 III：枕木山山地

シシの生息動向と捕獲状況について調査した。生息動向調査は、松江市、出雲市の鳥獣害対策の担当者、鳥獣保護員及び地元猟友会員への聞き取り調査によって行った。調査項目としては、当該地域においてイノシシの生息が確認され始めた2004年から2007年の期間を対象として、イノシシの目撃・捕獲・農作物被害を確認した位置と時期について聞き取りを行った。

聞き取り調査で得られた情報を、年毎にマップ化して、当地域におけるイノシシの生息分布の経年変化を分析した。また、捕獲状況調査は、県が保有する出猟カレンダーの記録から狩猟による捕獲頭数を、松江・出雲市で実施された個体数調整捕獲の実績をそれぞれ収集して分析を行った。

III 結果

2004年から2007年の各年のイノシシの目撃、捕獲と農作物の被害発生場所を図2に示した。2004年は、湖北山地の西側の出雲市野石谷町のみであったが、2005年には湖北山地の東側の松江市上大野町、秋鹿町、西長江町、東長江町、荘成町でも確認した。2006年には、湖北山地において前年までに確認していた地域だけでなく出雲市久多見町、多久谷町、多久町、坂浦、松江市西谷町など湖北山地の広範囲にわたって目撃、捕獲および被害を確認し、さらに枕木山山地の松江市島根町加賀、美保関町千酌でも確認した。2007年には、湖北山地、枕木山山地の広範囲で確認した。枕木山山地では、前年まで確認していなかった市街地に近い松江市西持田町や中海に面し

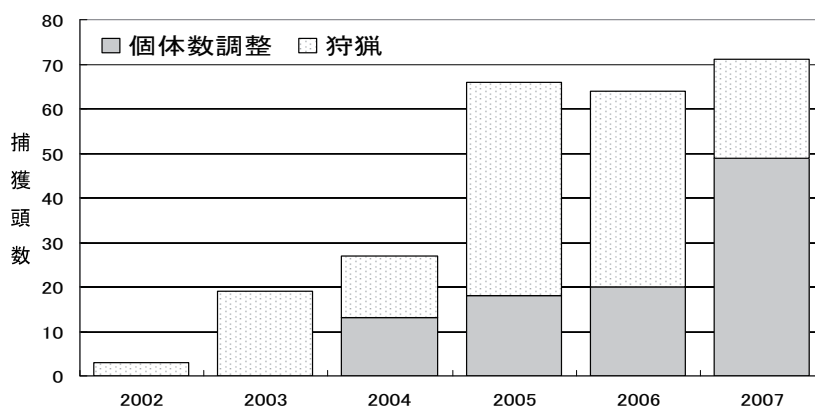


図3 島根半島におけるイノシシの捕獲頭数の推移

た松江市大井町，上宇部尾町，美保関町菅浦，美保関町福浦でも確認した。さらに，これまでイノシシの生息を確認していなかった弥山山地でも出雲市河下町，唐川町でも確認した。

次に，当地域におけるイノシシの捕獲状況について図3に示した。出猟カレンダーを調査した結果，狩猟では2002年 3頭，2003年19頭，2004年14頭，2005年48頭，2006年44頭，および2007年22頭を捕獲していた。個体数調整捕獲では，2004年から捕獲が始まっており，その年には13頭，翌2005年18頭，2006年20頭および2007年49頭を捕獲していた。狩猟と個体数調整捕獲を合わせた総捕獲数は2002年から2006年にかけては毎年増加の傾向にあって，とくに2005年は前年と比較して3倍以上の頭数を捕獲した。2005年以降は頭打ちとなったが，毎年70頭前後が捕獲されていた。また，2004年から2007年に行われた個体数調整捕獲では，毎年幼獣の捕獲を確認した。

IV 考 察

本調査の結果から，島根半島における近年のイノシシの分布拡大の実態が明らかになった。2004年に湖北山地西部の出雲市野石谷町でイノシシの生息を確認して以降，2005年には湖北山地東部で生息を確認し，2006年には湖北山地に加えて枕木山山地でも確認した。2007年には湖北山地，枕木山山地の広範囲でイノシシの生息を確認し，さらにこれまで生息を確認していなかった弥山山地でも確認した。これらのことから，2007年の時点では島根半島の広範囲でイノシシが生息していると考えられた。

イノシシは，傾斜が緩やかな丘陵地や林床に下生えの多い里山を好むといわれている⁷⁾。島根半島は，弥山山地の一部や日本海に面した北側斜面を除き全体としては傾斜の緩やかな地形している。平野部や谷間の平坦地は水田や畑地として利用され，宍道湖に面した丘陵地ではカキ栽培も行われている。森林の利用では，人工林は約30%で，多くは二次林化した天然性のアカマツ，広葉樹林となっている。このような環境は，イノシシの生息にとっては好適な環境であり，島根半島におけるイノシシの分布拡大の一因になったと考えられた。また，当地域においても水田の耕作放棄が進行しており，イノシシによる利用も確認した。水田の耕作放棄地は，イノシシの休息・避難場所，採食地，ヌタ場を提供する好適な環境

であり⁸⁾，今後耕作放棄地の増加が分布域の拡大と個体数の増加を助長すると考えられた。

狩猟と個体数調整捕獲によるイノシシの捕獲状況について調査したところ，狩猟は2002年から，個体数調整捕獲は2004年から捕獲が実施されていたことを確認した。2002年の捕獲頭数は3頭で，2003年には19頭，個体数調整捕獲が始まった2004年には狩猟と合わせて27頭であった。2005年以降は，捕獲頭数が急増して毎年70頭前後の捕獲が行われるようになった。これは，2005年からイノシシによる農作物の被害が発生し始めたため，被害対策としての捕獲が行われるようになったからであると考えられた。また，2005，2006年は狩猟による捕獲の割合が個体数調整捕獲より多かったが，2007年にはこの関係が逆転した。これは，被害対策に重点をおき，捕獲時期を狩猟期から農作物被害の発生する時期へ移行させたためであると考えられた。また，2004年から2007年に行われた個体数調整捕獲で，毎年幼獣が捕獲されたことから，当地域において繁殖していることが明らかになった。捕獲による被害対策と個体数管理への影響については，モニタリングを継続して検証していく必要がある。

引用文献

- 1) 島根県編：島根県に分布する獣類，p. 31. (1980).
- 2) 島根県編：第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（哺乳類），pp. 16, 39, 46. (1978).
- 3) 金森弘樹，井ノ上二郎，周藤靖雄：島根県におけるイノシシに関する調査（Ⅰ）—生息，被害および対策の実態—，pp. 5. (1997).
- 4) 島根県編：特定鳥獣（イノシシ）保護管理計画，p. 8. (2007).
- 5) 山川渉，金森弘樹，伊藤高明：島根半島湖北山地におけるイノシシの分布拡大，島根県中山間地域研究センター研究報告第3号，51-57. (2007).
- 6) 小畑浩：中国地方の地形，古今書院，1991，p. 184.
- 7) 江口祐輔，三浦慎悟，藤岡正博：鳥獣害対策の手引き，社団法人日本植物防疫協会，p. 30. (2007).
- 8) 小寺祐二，神崎伸夫，金子雄司，常田邦彦：島根県石見地方におけるニホンイノシシの環境選択，Wildlife Conservation Japan 6(2)，119-129. (2001).

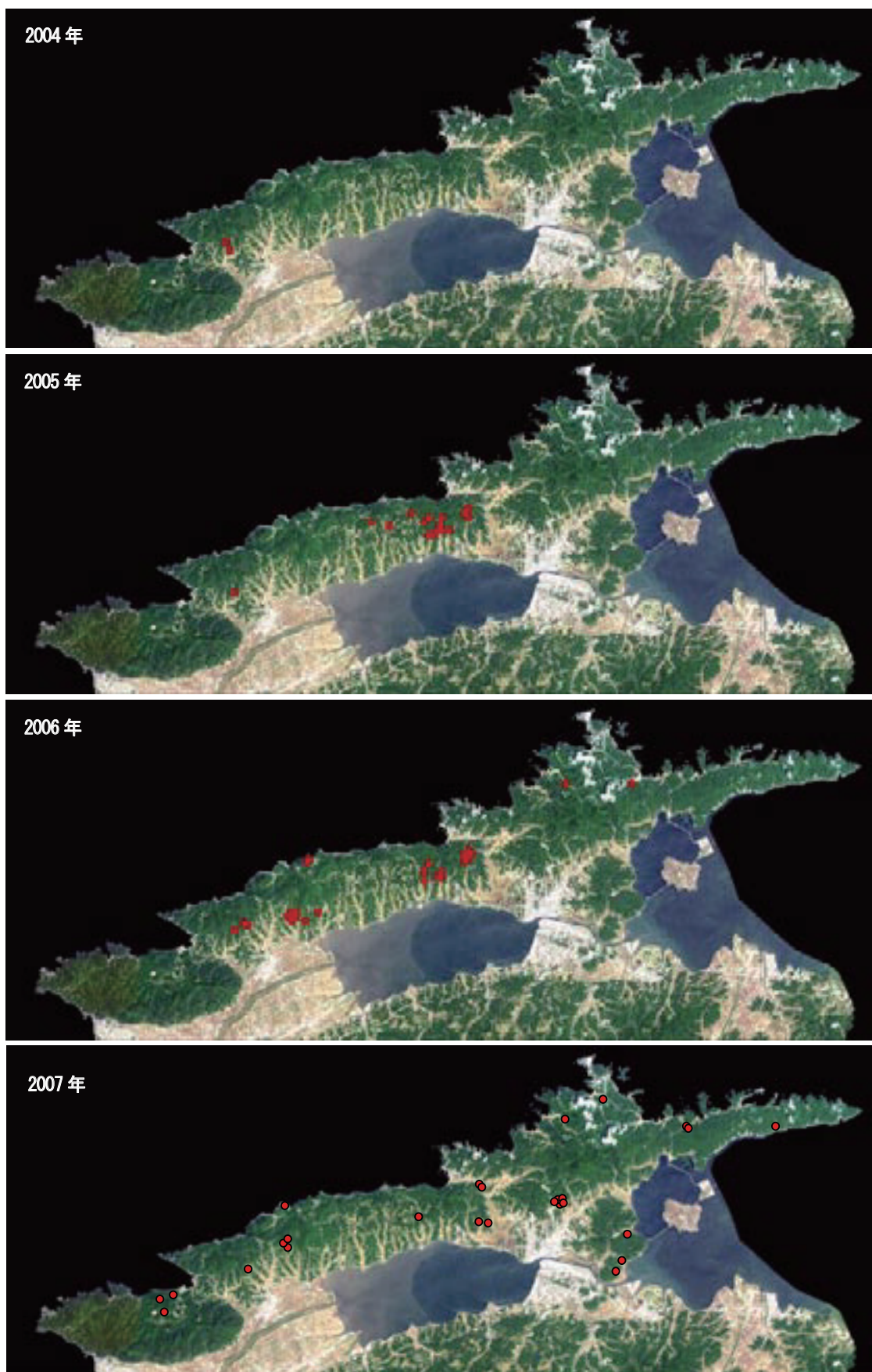


図2 イノシシの目撃，捕獲と農業被害の発生場所（経年変化）



写真1 個体数調整捕獲で捕獲された幼獣（写真提供：松江市）



写真2 箱罠によって捕獲された個体（写真提供：松江市）



写真3 くくり罠によって捕獲された個体（写真提供：松江市）